

# きらめき！ 地場企業

産業用の刃物をオーダーメイドで販売している。主な取引先は電子部品メーカーで、スマートフォンや自動車の部品を切断するのに使われる。素材は「超硬合金」。切る物に合わせて刃先の形状を最適化し、顧客も驚く切れ味を実現している。

市販製品との違いは、切断面にあらわれる。一般的なスチール製の刃では断面がひび割れたり、くずが発生したりして、切断後に研磨や洗浄などの工程が必要だ。

ファインテックの刃だと、きれいに切れるため、こうした工程がいらぬ。本木敏彦社長(66)は「切断後の工程が

## ファインテック (福岡県柳川市)



生じるのは、産業界で当たり前とされていた。我々は『切断品質』を提供し、現場に革命を起こしている」と胸を張る。

32歳で創業。当初は半導体の金型部品メーカーだった。2008年のリーマン・ショックを境に業態転換を迫られ、「刃物メーカー」となることを決意する。

金型部品の加工技術を活用

- ▽設立 1989年(創業は85年)
- ▽従業員 277人
- ▽売上高 27億3000万円(2018年10月期)

▲刃物メーカーとしての夢を語る本木社長

し、刃物の製造は創業2年目から続けていた。09年以降、「切断品質」を追求して顧客を広げた。

「中小企業は他社にない技術を磨くしかない」と本木社長は力を込める。ファインテックの製造現場には女性が多く、繊細な作業を丁寧にこなす。精度の高い製品を作り上げている。いまではナノサイズ(1ナ・は10億分の1)の刃先加工ができるようになった。

自動車の電動化に対応した取引拡大に加え、医療分野にも進出しようと、外科手術用ハサミの開発に取り組む。産業界だけでなく、医療にも貢献できればやりがいがある。世界一の刃物メーカーを目指す。本木社長の夢は大きい。

(岩崎拓)